



音楽の楽しみ

今年度最後となる第18回奈良学園大学登美ヶ丘カレッジでは、「音楽の楽しみ」をテーマとして、春を迎える季節にふさわしい明るく親しみのある音楽曲集を様々な演奏スタイルでお楽しみいただけるよう企画いたしました。ピアノのソロ演奏や声楽による歌曲集では本学教員で、フルートデュオやアンサンブルでは本学音楽専修の学生達による出演も予定しております。色とりどりの音の響き合う様をお聴きいただきながら寛ぎのひとつとなりますと幸いです。



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
特任教授
青山 雅哉 先生



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
准教授
森瀬 智子 先生

開催予定

日時：2024年3月2日(土) 14:00～15:30
場所：奈良学園大学 3号館 1F オープンcommons
定員：50名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

※ソーシャルディスタンス・換気・消毒の徹底等、感染防止対策を行います。
※教員だけでなく学生も参加します。

こちらから
申込みください。



第18回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

ニューズレター第12号 編集後記ご挨拶

このニューズレター第12号は今年度の最終号となりました。2024年の年明けは、能登半島震災や航空機事故の厳しさや哀しみに始まり、改めて気を引き締めてのスタートとなりました。

毎年の年度末には、PDCAに則って全てのリフレクションが行われます。本誌「奈良学園大学ニューズレター」創刊の契機となった一つには、4年前の新型コロナウイルスによって、近隣地域や関係機関の皆様との交流が制限され対面できない状況からでした。

私たちに、悲しみや苦しみ、厳しさを乗り越えて「ピンチをチャンスに変える力」が与えられます。また、非認知能力の中でもとりわけ注目される言葉の一つ「グリット(grit)」とは、「やり抜く力」または「粘る力」だと定義されています。困難に遭ってもくじけない闘志、気概、気骨などをあらわします。

さて、「第18回登美ヶ丘カレッジ」3月2日(土)午後には、テーマ「音楽の楽しみ」が開催されます。皆さんの笑顔や明るい歌声で、新年度の4月を迎える健やかな心身の準備ができることを願っております。是非、多くの皆様にご参集頂けますよう心からお待ちしております。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
善野 八千子

第16回・第17回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催

10月21日(土)は、保健医療学部看護学科の堀内美由紀教授が講師を務め「災害時のこころのケアー誰もが支援者になれるようにー」をテーマに、12月9日(土)は、保健医療学部リハビリテーション学科の福原啓太講師が講師を務め「自己効力感で行動が変わる～生涯を通じていきいきと過ごすヒント/子供を上手にほめるヒント～」をテーマに公開講座を開催しました。

第16回登美ヶ丘カレッジ



災害時の「自助・共助・公助」には、「日ごろの準備」が大切です。今回は「こころの応急手当：サイコロジカル・ファーストエイド」について紹介しました。被災した方が受けた心の傷も、手足のケガと同じように、初期の適切な手当てが悪化を防ぎます。その「応急手当」は、一般の方でも、「被災者の心の状態」や「支援者の基本的な姿勢」について知識があれば可能です。

今回は、講座の後半で「適切な方法で話を聞くこと」に焦点をあて、住民の方々が体育館に避難していると想定して演習を行いました。支援者役の方は、被災者役の方の話をささげらないようにし、上手にコミュニケーションをとられていました。

このスキルは、日常生活の中でも、ご家族の間で、地域での交流などでも役に立ちます。ぜひ活用して、災害時の備え(スキル)のひとつに加えてください。

第17回登美ヶ丘カレッジ



自己効力感とは、目の前の物事に対して「自分ができる」と確信できる感覚のことをいいます。意欲の元となるものであり、いきいきとした生活を営むための大切な原動力です。

自己効力感を育てるためには、どのようなことが必要なのでしょう。講義では動画資料なども交えながら、自己効力感が過去の経験や他者の観察によって学習されることを解説しました。

自己効力感とは子どもが成長する上で大切な感覚です。この感覚は、子どもの行動に対して言葉を使って明確にほめることで養われていきます。また、自己効力感は大人数になってからでも学習によって上書きすることができます。ボランティア活動や趣味の集まりなど、他人のいる場所に参加し「自分でもできるかも」と感じる事が第一歩となります。

質疑応答では「自己効力感」の由来などについて質問がありました。今回の講義が参加者の皆様の日常生活や、ご家族に接する時のヒントとなれば幸いです。

ニューズレター Vol.12 によせて



生駒市教育委員会
教育長
原井 葉子

生駒市では、毎年、学校現場で多くの教育実習生を受け入れています。教員にとって実習生に指導を行うことは自らの指導を振り返ることにつながり、子ども理解や授業づくりに取り組む実習生の熱意は学級や学校全体に活気を生み出します。私も、実習生の授業を参観しアドバイスや将来への期待を伝えることが楽しみでした。

今年度、奈良学園大学の第三者評価懇談会に参加させていただいた時のこと。代表で出席されていた現役学部生の、「自分たちが教員になりたいという思いを育ててほしい」という発言に胸を打たれました。

過酷な勤務状況、保護者対応の苦勞など、教員に対するブラックな印象ばかりが表出する昨今、現職の教員が自分の仕事に誇りをもって生き生きと輝く姿を見られることが、次代の教育を担う人材を育てることにつながるのではないかと思います。

教員が夢や希望をもって毎日笑顔で子どもたちと向かい合える、生駒市ではそんな学校教育を目指していきたいと考えています。

ご挨拶



奈良学園大学
保健医療学部 看護学科長
岩本 淳子

2023(令和5年)4月1日付けで、奈良学園大学保健医療学部看護学科へ着任し、看護学科長を拝命しました岩本淳子と申します。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、奈良学園大学の看護学科は2014年に開設され、今年は10年目を迎えます。「とうと取めてまた始まるを」(良寛)の文字通り、新たな10年を見据え、学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成に努めて参ります。

看護学科の使命は、「看護の専門性を備え、人のために行動し、人のために尽くし、人を支えることができる人」を育成することです。2022年度指定規則一部改正に伴うカリキュラム改正では、本学にも地域で生活する個人や集団に対して様々な場で、予防の段階から看護を実践できる力を育成する教育課程が編成されました。少人数制のグループワークやゼミナール、ピアサポートの機能を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力、推論・論証、問題解決能力、臨床判断力を伸ばすことに重点をおいた講義・演習・実習を行っています。また今年は受験合格者に看護学科の新たな取り組みや魅力を知ってもらえるよう「入学前スクーリング」の内容を充実しました。入学後は学生の心理的安全性を高め、安心して学習できる環境を整えます。学びの質を保証し、学力の底上げを行うとともに、学びの広がりや深まりを体験してもらいます。一人ひとりの強みを生かしてしなやかな心を育み、入学時に抱いた夢を実現できるよう支援してまいります。

奈良学園大学の良さは教職員が「建学の精神」で繋がり、互いに目標の実現に向けて助け合う関係にあることです。ホスピタリティマインドに溢れ「学生ファースト」の精神を基調に「面倒見の良い大学」を目指した取り組みが行われています。近隣地域の交流が活発で学園祭などの大学行事には多くの市民の方が大学へお越しくださいます。大学を核に深まる人々のつながりにおいて私も精進を重ねて参ります。地域の皆様、医療福祉関係機関や保証人の皆様、大学関係者の皆様には今後ともご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

鍵本 有理 先生



2022(令和4)年度に着任しました。専門は「日本語学」(国語学)です。たとえば、「母()別れて」の空欄に何が入るでしょうか。現代語なら「と」「に」ですが、「万葉集」では「母を別れて」という例が見出されます。このような古典語の研究を通じて、学生に自身で考え、調べることを伝えていきたいと考えています。また、社会人向けの古典講座を20年以上にわたって続けています。ご要望がありましたら是非お声がけください。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

蓮池 光人 先生



私は、精神看護学領域を担当しています。学生と一緒に、何事も常に楽しみ、相互浸透しながら成長しあい、相手の立場に立ち、相手のことを思う「こころ」豊かな看護師育成を目指しています。精神科看護師の時に出会った、境界性パーソナリティ障害患者一人一人との関わりを通して精神科看護師として成長させていただいた経験から、青年期にある対象のメンタルヘルスを専門に行ってきました。現在は、夜の街関連職業従事者の健康支援など、地域社会で生活されている青年期の方々のケアなども行っています。

辛いこと、苦しいこと、しんどいことの多い看護学生ですが、それ以上の喜びや楽しみ、やりがいを感じ、そして何より学生一人一人が笑顔で生活できるように、学生に感謝しながら共に楽しんでいきたいと思ひます。「豪快かつ繊細に」「人生笑える！」

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

伊藤 健一 先生



大学では心臓と呼吸、糖尿病のリハビリテーションを担当しています。人は誰しもが歳を重ね、高齢期になると多くの人が心臓や呼吸器に病気を患ったり、それらの機能低下を認めます。そして、運動を含めた活動量の低下を余儀なくされます。これらは健康や寿命(予後)と関係が深いことから、活動量を維持・増大していく必要がありますが、実践しようとするとそう簡単にはいきません。如何にして活動量の維持・増大を図っていくか、最新のテクノロジーやDX技術の活用も含め、この難題に取り組んでいます。仕事の信念として大事にしている言葉は「不易流行」です。

卒業生からのメッセージ



奈良学園大学
保健医療学部
リハビリテーション学科
1期生
泉 連太郎 さん

私は奈良学園大学で作業療法士の資格を取得しました。

コロナ禍での在学でしたが、国家試験や就活の事で悩んだ時には、先生方に毎日の様に相談に乗って頂き、無事乗り越える事ができました。

現在、京都府内の入院病棟でリハビリを担当して数ヶ月が経ちました。

卒業後ご指導頂いた先生方と連絡が取れる安心感があるので、頑張っ

てやっています。奈良学園大学で学ぶことができ、本当に良かったと思います。

在学生からのメッセージ



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
3回生
川上 誓也 さん

私は中学校の数学教員になることを目標にし、奈良学園大学で日々学修しています。副免許として、小学校の教員免許取得も目指しており、算数・数学の楽しさを伝えられるよう、専門的な知識を深めています。

大学では、学生による自治組織である「学友会」に所属し、2回生の時には会長も務めていました。大学の先生方をはじめ、先輩や後輩、企業の方々など、多くの方と協力して学園祭をはじめとする様々な行事・取り組みを行うことで、とても充実した楽しい大学生活を送っています。さらに学友会での活動を通して、人と関わることの大切さ、楽しさ、難しさを感じ、人として大きく成長することができたようにも思います。

今後も、「人を支える人になる」ために、人間教育学部の学生として、自分の目指す教師像に向けた学修に励んでいきます。



バトンを渡す会

人間教育学部では11月23日(木)に、教員採用試験受験者から下級生に、試験対策について伝える「バトンを渡す会」を開催しました。受験対策や試験内容等をパワーポイントにまとめたり、使用教材をコモンズに展示したりして、有益な情報を数多く伝えられるよう、事前に準備して臨みました。1限は1回生全員に、3限は2・3回生教員志望学生を対象に受験地ごとに分かれて実施し、ブースを回ってくる下級生に対して対策方法等を伝えたり、下級生からの質問に答えたりして和やかな雰囲気のもとで進めました。参加者からは、「早くから対策すれば合格はつかめる」という先輩の力強い話を聞いて、今から頑張ろうと思った」という前向きな感想も聞かれ、下級生に「バトン」を渡すことができたと感じています。教採合格は計画や対策に加え、仲間や先輩・後輩達との横と縦のつながりが欠かせません。今後も、力強いバトンが引き継がれることを願っています。

文：原田真奈(人間教育学部4回生)、文責：西江なお子

